第４１回岩手県勤労者美術展　審査評

開催期間　2022 年 11 月 25 日(金)～27 日(日)　於：盛岡市民文化ホール･展示ホール

<<絵画の部>>出展数　２６点　　審査員：日下（ひした）　信介（しんすけ）氏

岩手県知事賞（１名）

氏　名：梅田（うめだ）　節子（せつこ）（盛岡市）　作品名：面影（おもかげ）

審査評	ややくすんだ黄・緑・紫の背景にキャンバスの人物とそれを見るシルエットで表現された人物が描かれる。キャンバスの人物の瞳が何かを語り掛け、二人の関係に見る側のイメージがふくらむ。余韻の残る作品である。

優　秀　賞（１名）

氏　名：荒井（あらい）　賢二（けんじ）（遠野市）　作品名：水温む（みずぬる）

審査評	横に広がる画面に力強く走る機関車が見る側を引きつける。新緑の明るい景色の中、水温む川面の表現が秀逸である。

奨　励　賞（３名）

氏　名：川畑（かわはた）　和子（かずこ）（盛岡市）　作品名：また逢（あ）いに来（き）たヨ

審査評	水族館の水槽を泳ぐエイに手を振って合図する二人の子供が、物語の挿絵のように描かれている。エイと二人の子供との気持ちの交流が、さりげなく感じられる作品である。

氏　名：佐々木（ささき）　宗子（ときこ）（盛岡市）　作品名：雨上（あめあ）がり

審査評	ただ自転車が雨の水たまりに写っている場面であるが、地面のマチュールをきかせた表現が、画面に厚みをもたらし色彩の美しさを感じる。

氏　名：佐藤（さとう）　光義（みつよし）（花巻市）　作品名：釜渕（かまぶち）の滝（たき）

審査評	雪どけの早春の頃であろうか、流れ落ちる水のせせらぎの音が聞こえてくるような画面である。水彩の特徴的な表現をうまく使っている。

佳　　作（５名）

氏　名：巣鴨（すがも） 尋子（ひろこ）（盛岡市）　作品名：栄華（えいが）の刻（とき）を想（おも）う（アンコールワット）

審査評	悠久の時を太い木の根元で表現し、力強い生命力が感じられる作品である。

氏　名：瀬川（せがわ） 睦子（むつこ）（盛岡市）　作品名：祝（しゅく） ８０歳（さい）

審査評	８０歳を記念したポートレートだと思われる。 穏やかな表情の中に、80 年のプライドも感じられる。

氏　名：大須賀（おおすが） 美智子（みちこ）（花巻市）　作品名：影遊（かげあそ）び

審査評	映し出された自らの影をモチーフに画面を作り込んだものであろうか。靴の他は、ほぼ抽象的な表現で引きつける。

氏　名：髙橋（たかはし） 邦枝（くにえ）（盛岡市）　作品名：生気（せいき）～誇（ほこ）りある輝（かがや）き～

審査評	百合の白い花を画面構成的にリズミカルに描いた。 香ばしい匂いまでも感じられる作品である。

氏　名：上野（うえの） 仁志（ひとし）（盛岡市）　作品名：モン・トランブラン

審査評	色鮮やかな街並みが細かく描き込まれている。 遠景の家や船が少し浮いており、落ちつけば更に素晴らしい作品となると思う。

◆ 総　評 ◆

それぞれの作家が、作品に向かう真摯な姿勢が感じられ、大変好感が持てる展示会だと思います。

作品を通して、表現したいもの（主題・テーマ）は何かをしっかり担い、どのような形で描いていくかを、より一層追及していただきたい。

第４１回岩手県勤労者美術展　審査評

開催期間　2022 年 11 月 25 日(金)～27 日(日)　於：盛岡市民文化ホール･展示ホール

<<写真の部>> 出展数　３８点　　審査員：小川（おがわ）　文男（ふみお）氏

岩手県知事賞（１名）

氏　名：森田（もりた）　洋子（ようこ）（盛岡市）　作品名：静寂破（せいじゃくやぶ）る大（だい）ジャンプ

審査評	全体の静寂感を破る一匹の魚のジャンプ。ピントが良く、跳ねる水の輝き、池に写ったカゲの形、森の水面に写った境目のきわどさ、カラーバランスが凄く良い。

優　秀　賞（１名）

氏　名：及川（おいかわ）　茂輝（しげき）（盛岡市）　作品名：古（ふる）さ薫（かお）る町（まち）

審査評	スナップ写真では、一番秀逸です。 古い町並みに通りかかった三人、ソフトクリームを食べながらの足並みも実に良かった。

奨　励　賞（４名）

氏　名：北井崎（きたいざき）　昇（のぼる）（盛岡市）　作品名：放牧（ほうぼく）に喜（よろこ）ぶ

審査評	とにかく馬の走っている形が、スピード感が良く出ている。 前の馬の髪の毛の形は今迄見たことのない立ち上がり方である。

氏　名：君塚（きみづか）　みつ子（こ）（盛岡市）　作品名：微笑（ほほえ）ましい

審査評	親鳥が子供の方にふり向いた瞬間が見所でしょう。 幸福感いっぱいです。

氏　名：福盛田（ふくもりた）　弘（ひろし）（花巻市）　作品名：輝（かがや）きの刻（とき）

審査評	見た時に非常に精神性の強い写真。落ち着き・安定・静寂、そうゆうものが画面の中から溢れ出る。全体のカラーバランスが統一され、ポイントを右と左において全体の構成が素晴らしい。構成力がベテランらしく、完成度が高かった。

氏　名：福盛田（ふくもりた） 美奈子（みなこ）（花巻市）　作品名：初夏の高原

審査評	いつもの優れた風景から一変して馬に乗り換えましたね。 いろいろ撮って楽しみましょう。

佳　　作（５名）

氏　名：谷村（たにむら） 福美（ふくみ）（盛岡市）　作品名：ふれあい

審査評	上からの撮影により人を中心に円の鳥たちによくまとめました。

氏　名：伊香（いこう） 祥平（しょうへい）（盛岡市）　作品名：昆虫（こんちゅう）ワールド

審査評	カマキリの凄さがよく表現されている。 上部を少しカットしても良かった。

氏　名：松島（まつしま） 哲夫（てつお）（盛岡市）　作品名：ハレの日（ひ）

審査評	画面全体のまとまりがよく、力強いスナップになった。 子に表情がないのが惜しかった。

氏　名：板垣（いたがき） 弘清（こうせい）（花巻市）　作品名：秋日射（あきひさ）し

審査評	静かな秋の寺の門、ポイントを上と下に置き、なかなかシャレた写真となった。

氏　名：米田（まいた） 義實（よしみ）（盛岡市）　作品名：樹（き）の履歴（りれき）

審査評	このような場所は、気づくと、方々（ほうぼう）によく見かけますが、注意しないと見つかりません。

◆ 総　評 ◆

今回の出展数は３８点と、少し減りました。
社会事情もあって落ち着いて撮影出来ないこともあったと思います。
作品の出来も、やや低調感がみえました。
次回は、もう少し現在の生活を明るいタッチで応募されたらいかがでしょう。

第４１回岩手県勤労者美術展　審査評

開催期間　2022 年 11 月 25 日(金)～27 日(日)　於：盛岡市民文化ホール･展示ホール

<<書道の部>> 出展数　１７点　　審査員：吉田（よしだ）　晨風（しんぷう）氏

岩手県知事賞（１名）

氏　名：木内（きうち）　淳子（じゅんこ）（汀鷺（ていろ））（盛岡市）　作品名：王嘉謨詩（おうかぼし）

審査評	行書の中に草書を交えて流動感を表現しながら、線にボリュームを加え、しっかりした線で全体をまとめている。 線を大切にし、行間も効果的で、墨色が冴えた作品。

優　秀　賞（１名）

氏　名：松江（まつえ）　邦雄（くにお）（春風（しゅんぷう））（花巻市）　作品名：楽在其中（らくざいきちゅう）

審査評	刻字の彫る作業の中に、毛筆の筆勢を表現し、丁寧な作品の創り方が落ち着いた作となっている。

奨　励　賞（１名）

氏　名：片方（かたがた）　正明（まさあき）（北上市）　作品名：唐詩（とうし）

審査評	筆の動きが自在で、連綿が騒がしくなるのを墨量の多さで工夫し、自然な余白の使い方が作品をまとめている。 文字と文字がぶつかって字坐が少なくなった所が散見されるのが惜しいところです。

佳　　作（４名）

氏　名：大矢（おおや）　幸一（こういち）（瑞峰（ずいほう））（矢巾町）　作品名：高青邱詩（こうせいきゅうし）

審査評	しっかりした線で作品規模が大きく、隷書に正面から取り組んでいる姿勢が伝わってきます。

氏　名：上澤（かみさわ） 裕子（ゆうこ）（花翠（かすい））（盛岡市）　作品名：秋山玉山詩（あきやまぎょくざんのし）

審査評	動きのある文字と余白の兼ね合いが工夫され、全体感のよくまとまった作。

氏　名：種市（たねいち） 敏恵（としえ）（久慈市）　作品名：白楽天詩（はくらくてんし） 二首（にしゅ）

審査評	多字数を行間の響き合いで、品よく全体をまとめた。程よい墨量の工夫が、作品に変化を与えている。

氏　名：高橋（たかはし） 光子（みつこ）（紫水（しすい））（盛岡市）　作品名：臨（りん）・雁塔聖教序（がんとうせいきょうじょ）

審査評	細字の楷書を、一貫した呼吸で書き上げたよくまとまった作。 紙質にも工夫され、書の学びに欠かせない雁塔聖教序に取り組んだ意欲をこれからの作品制作に生かしてほしい。

◆ 総　評 ◆

ベテランの方の力作が、新規の人の作品に影響を与えているのが伝わってくるような書の展覧のように感じました。
作品は書くごとに変化してくるものです。少しずつの取り組みが作品を充実させてくれるものです。これからも取り組みの長い短いにかかわらず、自分の成長を楽しみに書学に関わっていってほしいと念願しています。
それぞれが充実した作品でした。